

■目的 高齢化社会の到来に備え、高齢者が現在住んでいる地域に定住し、たとえ車椅子使用者になってもできるだけ自立して生活できるような「高齢者配慮住宅」を設計した。この場合、都市型住宅のような狭い住宅でも車椅子使用を可能にするために、住宅用小型車椅子を提案した。

■方法 まず高齢者の住宅事情を把握するために、各自治体の高齢者の住宅行政に対する施策や設計指針の内容、及びその問題点と、シルバーピアに居住する高齢者に、実際に配慮された各部位の有効性についての2つのアンケート調査を参照した。また、住宅用小型車椅子においては、JIS規格の小型の寸法をもとに可能性を考慮して提案した。そしてそこで求められた各空間別の寸法により、都市型高齢者配慮住宅を設計した。

■結果 各自治体のアンケート調査では、住宅側の福祉データを持っている自治体が少なく、福祉部門との連携の必要性を窺える。また住宅に関する設計指針の作成例は少なく、施策に応用された数も少ないことがわかった。また各配慮部位の有効性については、全体的に配慮部品に対する評価より快適部品に対する評価が高かった。特に身体機能レベルの低い者は各配慮部位にかなり頼る傾向にあり、住宅の不具合がまともに影響を及ぼすようである。また住宅用小型車椅子の提案は、標準のものとは全長で10cm、全幅で5cm縮小することができた。また座面高も45cmから40cmに低くすることができた。そして都市型高齢者配慮住宅の提案では、住宅用小型車椅子使用を前提とすれば、標準型車椅子使用時と比べ、各階ごとに約3㎡ずつの余裕な空間を確保することができた。